

リスニング テキスト

1



目次

はじめに

Day 1 なぜ英語が聞き取れないか？

第1部

Day 2	子音の練習	[s][θ]
Day 3	子音の練習	[l][r]
Day 4	子音の練習	[f][v]
Day 5	子音の練習	[m][n][ŋ]
Day 6	子音の練習	[p][b][t][d][k][g]
Day 7	子音の練習	[s][z][ʃ][ʒ][tʃ][dʒ][θ][ð]
Day 8	子音の練習	[h][j][w]
Day 9	母音の練習	[æ][ʌ][ɑ][ə]
Day 10	母音の練習	[əːr][ɑːr]
Day 11	母音の練習	[ɪ][iː][ʊ][uː]
Day 12	母音の練習	[e][ɔː][ɔːr]
Day 13	母音の練習	[aɪ][aʊ][eɪ][ɔɪ][ou]
Day 14	区別の必要な音のペア	

第2部

Day 15	リンキングの発音練習
Day 16	Tの発音変化
Day 17	音の脱落の発音練習
Day 18	一文が長いものの聞き取り練習
Day 19	英語を速読するコツ
Day 20	テキスト1のまとめ

Day 1

なぜ英語を聞き取ることができないのか？

『なぜ英語を聞き取れないのか』
という根本的な質問の答えを
Day 1では考えてみよう。

日本語は聞き取れるのに、英語は
聞き取れないのは、
『日本語の音』と『英語の音』の
違いに原因があると考えられる。

次のページで、『日本語の音』と
『英語の音』を母音と子音に分け
て概観してみよう。

何がわかるだろうか？

母音

a
(ア)

i
(イ)

u
(ウ)

e
(エ)

o
(オ)

英語の母音一覧

「ア」に近い聞こえ方の音

æ

ʌ

ɑ

ə

əːr

ɑːr

「イ」に近い聞こえ方の音

ɪ

iː

「ウ」に近い聞こえ方の音

ʊ

uː

「エ」に近い聞こえ方の音

e

「オ」に近い聞こえ方の音

ɔː

ɔːr

二重母音

aɪ

aʊ

eɪ

ɔɪ

oʊ

子音

k

s

t

n

h

m

y

r

w

g

z

d

b

p

英語の子音一覧

s

z

θ

ð

l

r

f

v

m

n

ŋ

p

b

t

d

k

g

ʃ

ʒ

tʃ

dʒ

h

j

w

日本語と英語の音の数の違い

日本語の
母音
5

英語の
母音
18

日本語の
子音
14

英語の
子音
24

なぜ英語を聞き取ることができないのか？

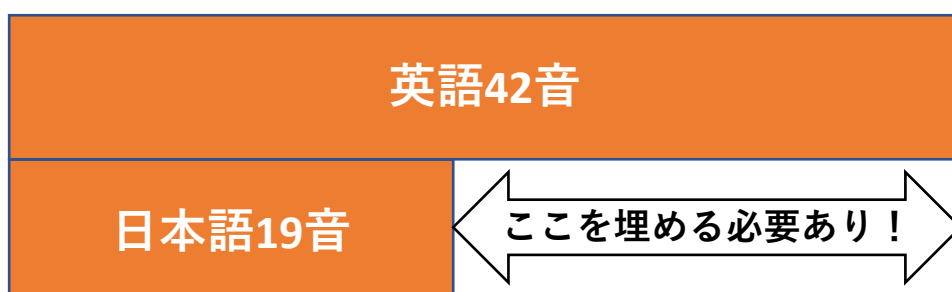
『日本語の音』と『英語の音』を比較すると、明らかに英語の方が音の数が多い。

したがって、英語には、日本語の音では対応できない部分が多い。

これが、英語を聞き取ることができない大きな理由。

この対応できない部分を埋めていくことが必要。

イメージ図



学習の方針

前のページで示されていたように、日本語と英語の音は、大幅に違います。

この違いを把握し、英語の音一つ一つを聞き取れる力をつけること、これがこのテキストの目標です。

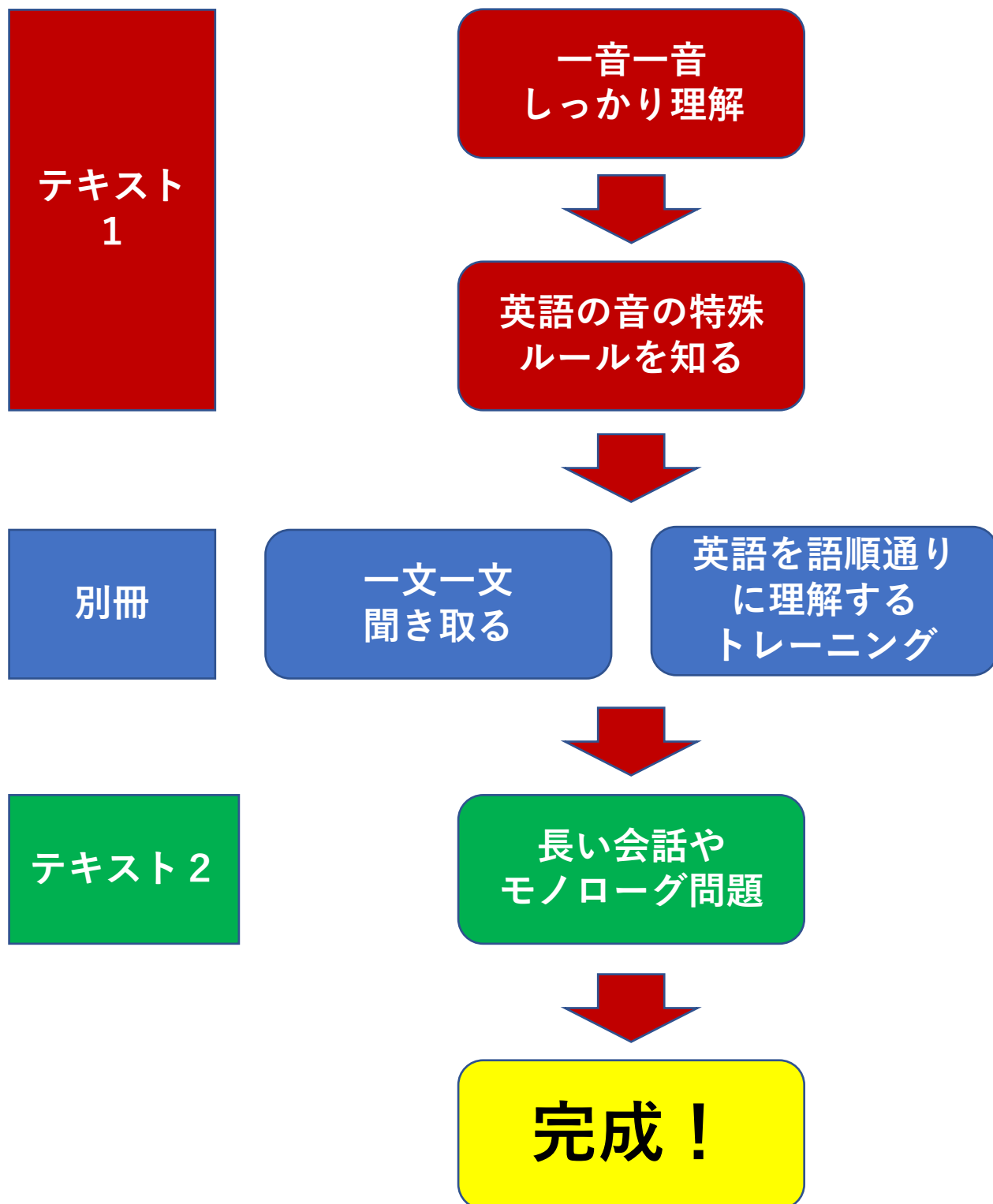
そして、そのために、まずはDay 1からDay 14で、英語を一音一音トレーニングしていきます。その際、お手本に合わせてきれいに発音しましょう。

次に、Day 15からDay 19で、英語の音の特殊ルールや、知っていると役立つ英語の音のポイントなどを学習します。

また、テキスト2には、実戦演習問題が収録されているので、テキスト1で習ったルールを実際に使うトレーニングができます。

それでは、トレーニングを始めていきましょう！

学習の流れ（イメージ図）



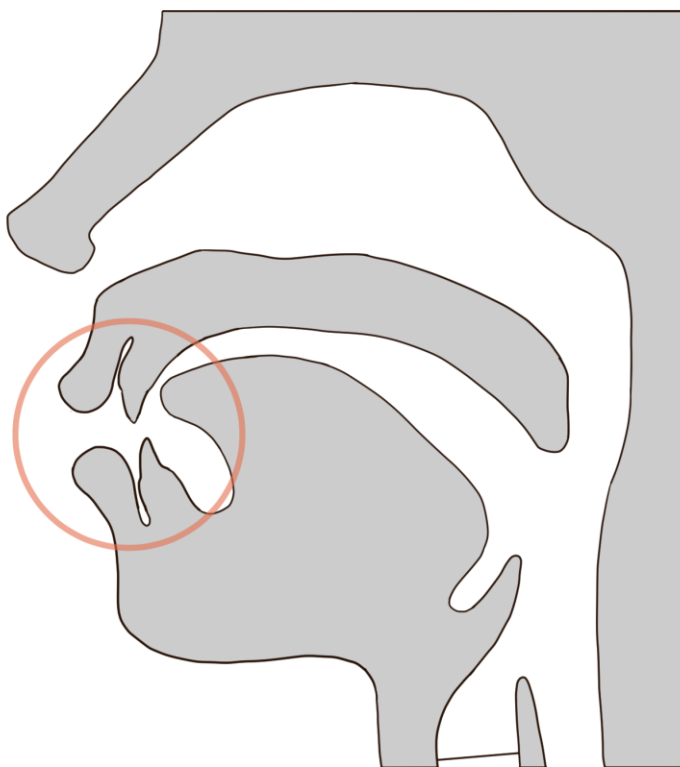
第1部

Day 2

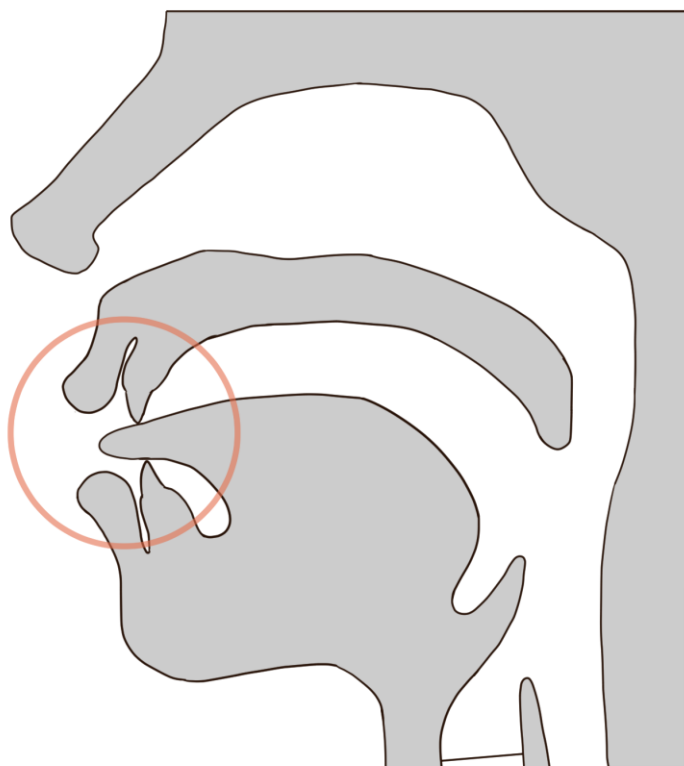
[s]と[θ]の区別

- 1) sick, thick
- 病気の、分厚い
- 2) sing, thing
- 歌う、物・事
- 3) sought, thought
- seekの過去形、thinkの過去形
- 4) sink, think
- 沈む、考える
- 5) sin, thin
- 罪、薄い
- 6) seem, theme
- 思われる、テーマ
- 7) sum, thumb
- 合計、親指
- 8) sigh, thigh
- ため息をつく、太もも
- 9) song, thong
- 歌、ひも

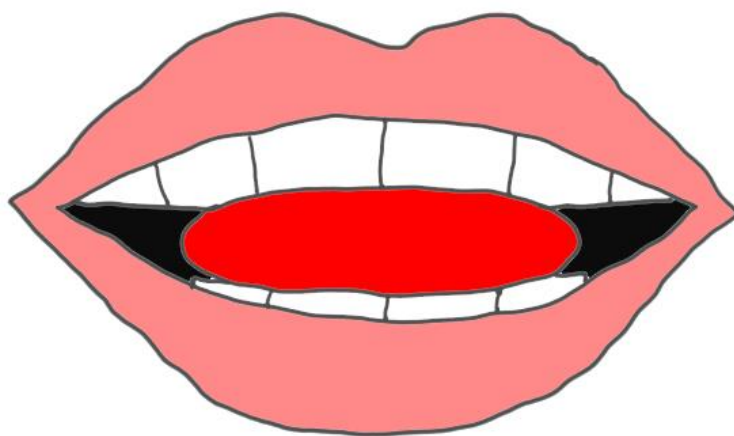
s



θ



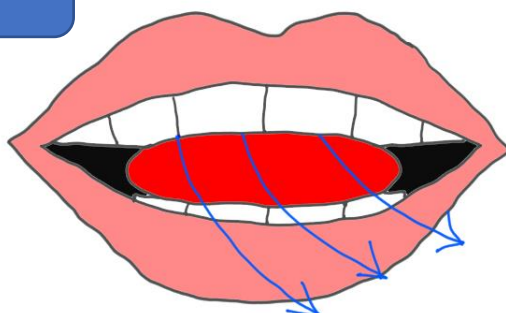
th[θ]の発音の 口の形



発音のやり方

上と下の前歯の間から舌を出して、舌を上の前歯に添えて、息を通す。

空気の流れ



sickとthickの聞き分け トレーニング

問題

放送される英文を聞いて、sickとthickの発音の違いを把握しましょう。

読まれた英文

sick. sick. sick. sick. sick. thick. thick.
thick. thick. thick. sick. thick. sick. thick.
sick. thick. sick. thick. sick. thick. thick.
thick. sick. thick. sick. sick. thick.

アーサー？

次の英語を聞いて、どちらを言っていたか考えてみましょう。（動画の18秒頃）

①Arthur

②Arser



リスニング力を上げたい人が発音を鍛えたほうがいい理由

Day 2で、『発音のトレーニング』がスタートしましたが、ここで『リスニング力を上げたい人は、発音を鍛えたほうがいい理由』をお話しします。

ここで一つたとえ話をします。

これから、あなたが、自分の知らないスポーツの試合を見るときです。仮に、アメフトの試合を見るときです。（もしアメフトを知っていたら、別のスポーツを思い浮かべてください。ゴルフでも、カバディでもなんでも良いです。）

さて、その試合を見て、試合の流れがどうなっているかや、どのプレーが良かったか、など細かいところはわかりますか？

おそらく、わかりませんね。

なぜでしょうか？それは、そのスポーツをプレーしたことがないからです。

しかし、仮に、これから3か月、アメフト部に入って、ルールを学び、実際に練習試合に出るとしたらどうでしょう？

その後、アメフトの試合を見たら、試合の流れやどのプレーが良いのか、細かいところまでわかるようになっていくと思います。

なぜなら、実際に体を動かしてアメフトをプレーすることで、アメフトはどんな試合展開になるのか、どのようなプレーが良いのか、どのようなプレーが難しいのかなどが、よく理解できるからです。

リスニング力を上げた い人が発音を鍛えたほ うがいい理由（続き）

見ると聞くとの違いですが、リスニングも同じです。

リスニングも、音のルールを知らず、そして、リスニングをプレーする（つまり、実際に発音してみる）ことをしない状態で、リスニングをしても、知らないスポーツの試合を見るのと同じ現象が起こります。

つまり、リスニングが、ぼんやりしかわからない、という現象です。

では、どうすれば、リスニングがしっかりわかるようになりますか？

それは、リスニングのルールを知り、そして実際に口で発音できるようにすることです。

アメフトの試合をわかるようになるための近道は、アメフトをプレーしてみる、ということでした。

同じように、リスニングがわかるようになるは、実際に発音してみて、発音を知ることが非常に有効です。というわけで、発音の勉強、がんばりましょう！